

加工用キャベツ 栽培マニュアル



平成30年6月
いなほ農業協同組合

<加工用キャベツのポイントと注意点>

- 加工用キャベツは、収益性向上を図るため、一斉収穫による収穫作業の省力化が重要である。そのためには、生育を揃える必要がある。
- 収量を確保する大玉生産のためには、外葉を大きく生長させる必要があり、そのため①若苗定植による速やかな活着、②排水対策の徹底、③追肥による生育初期の肥効維持が重要である。
- カルシウム欠乏症（縁ぐされ、芯ぐされ症、チップバーン）対策としての乾燥時の灌水や、アオムシやヨトウムシ、黒腐病等の病虫害対策としての定期防除を徹底する。
- 加工向けの出荷規格・商品基準は市場出荷向け以上に厳しく、病虫害被害などのあるキャベツは一切出荷出来ない。

【栽培こよみ】

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
10月どり (輝吉のみ)	VV 排水対策	○ は種 7/7~7/15	△ 定植 8/1~8/9	↓ ↓ ↓ 防除	↓ 収穫		
11月どり (輝吉、おきな)	VV 排水対策	○ は種 7/16~7/28	△ 定植 8/10~8/22	↓ ↓ ↓ 防除	↓ ↓	■ 収穫	
11月下旬~ 12月上旬どり (湖月 SP)	VV 排水対策	○ は種 7/16~7/28	△ 定植 8/10~8/22	↓ ↓ ↓ 防除	↓ ↓	■ 収穫	

【品種】

① ^{てるよし} 輝吉(日本農林社)	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後 80~90 日で収穫できる品種。 ・球形は平玉で玉伸びが良く、非常に栽培し易い。 ・耐暑性があり、黒腐病に強く栽培し易い。 ・球揃いが良く、一斉収穫できる。
② おきな (タキイ)	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後 80~90 日で収穫できる品種。 ・萎黄病に抵抗性があり、耐暑性にもすぐれる。 ・肥大がよく、L~2L 玉の大玉収穫が可能。 ・裂球が遅く、在圃性にすぐれる。
③ 湖月 SP (タキイ)	<ul style="list-style-type: none"> ・定植後 90~100 日で収穫できる品種。 ・収穫適期を過ぎた後も肥大が持続する。 ・裂球が遅く、在圃性にすぐれる。 ・日持ち、輸送性にすぐれる。

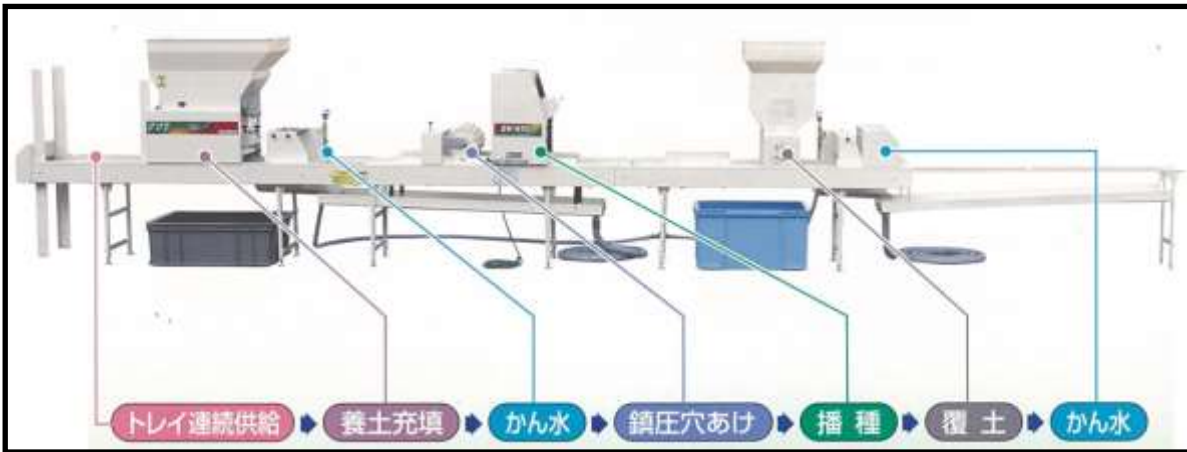
1 播種

【準備する資材】

- ・ヤンマーセルトレイ 128穴 27~30枚/10a
- ・育苗培土（いなほセル専用培土） 6袋/10a ※1
- ・種子（コーティング種子） 5,000粒/1缶/10a ※1
- ・水稻育苗箱（アンダートレイ） 播種枚数分
- ・水稻用苗枠 播種枚数分
- ・イチバン乳剤（セルトレイ消毒用）
しっかりと消毒を行う ※セルトレイを新たに使用する場合は不要

●自動播種機を利用する場合

- ・※1は準備不要（利用料にて精算）
- ・利用料金（仮）：資材費（種子、培土） + 利用料 60円（税別）/枚
- ・播種作業には生産者側からも4名の出役が必要となるため、事前に予定を組む。



●自動播種機を利用しない場合

必要数：種子 3,456粒/10a、セルトレイ：27枚/10a

（畝幅 150cm×株間 35cm×2条植えの場合の理論定植本数：3,456株/10a）

【播種作業手順】（野菜播種機を利用する場合は自動）

- ① 水稻育苗箱にセルトレイを入れ、育苗床土を詰める。
- ② 各セルに5~10mmの深さのくぼみをつけ、1粒ずつ播種する。
- ③ くぼみがなくなる程度に覆土する(5mm程度の覆土)。
- ④ たっぴりと灌水し、育苗箱から水が落ちなくなった後、水稻用苗枠に載せる。

2 育苗

【準備する資材等】

- ・直管パイプ、タル木、レール等：9.6m×2列分
 - ・簡易ベンチのためのコンテナ、水稻育苗箱等
 - ・遮光資材（寒冷紗、ラプシート等）
 - ・散水ノズル及び散水ホース
- ① 夏期の育苗は、育苗ハウス内が高温となり、発芽不良となりやすいため、播種・灌水後のセルトレイは、搬出用苗枠等に入れたまま、水稻育苗室等の日の当たらない涼しい屋内に2晩置き、3日目の朝にハウスに並べ、たっぴり灌水する（底穴から水が少し出るまで2往復

程度、ムラの無いよう)。

※コーティング種子は吸水後に乾燥させると発芽不良を起こすため、発芽までは絶対に乾燥させないように注意する。

②ハウスに並べる際は、簡易ベンチ(コンテナや水稻育苗箱(5段以上)と直管パイプ等を組み合わせて作成)の上に、受けの水稻育苗箱を裏返しにした上で、セルトレイを並べる。苗を地面から浮かせることで、水が抜けやすくなり湿害が発生しにくくなるほか、トレイ内で根鉢が形成されやすくなる。

③日中の直射日光と高温を避けるため、ハウス屋根に遮光率 30%程度の寒冷紗等を設置するほか、全面開放して風通しを良くする(25℃以下を目安)。

④灌水は原則毎朝実施し、昼前に確認し、乾いていれば、再度灌水する。夕方の灌水は徒長苗の原因となるため、極度な乾燥時以外は夕方(午後4時以降)は灌水しない。

⑤べと病予防として本葉1枚展開時に必ず防除を行う(ダコニール1000)。

⑥育苗中に害虫が発生した場合は速やかに防除する(ダイアジノン乳剤40等)。

⑦育苗中に肥料が切れないようにするため、播種後15日頃と20日頃に、液肥(やさい燐加安S540の500倍液)を朝の灌水代わりに行う。

例:5ℓのジョウロに肥料を10g入れ、よく攪拌した後に散布する。

⑧播種後20~25日頃、本葉2~2.5枚展開時に、根鉢ができていれば、苗が老化しないうちに速やかに定植する。

※天候を見て定植作業を優先し、初期の活着促進を図る。



定植適期の苗
(根鉢が適度に形成)

3 圃場準備・施肥等

(1) 圃場準備

ア 雑草対策

- ・前作終了後、定植までの期間が1ヶ月以上ある場合、(圃場に雑草の種を落とさないため)発生した雑草を耕起しすき込む。ただし、雨水の透水性を保つため、耕起は粗く行う。
- ・耕起後、雑草が生え揃った時に、ラウンドアップマックスロード等で枯殺するか、雑草発生がひどくなる前に、再度耕起する。

イ 排水対策

- ・早めに額縁排水溝や弾丸暗渠の施工を行い、排水溝と排水口をしっかりと連結しておくことで、圃場の排水性を良くしておく。

(2) 施肥

肥料名	基肥	成分量		
		N	P	K
苦土石灰	120			
マルチサポート1号	60			
醗酵けいふん	100	1.8	7.5	3.7
キャベツ早生一発	200	36	18	26
合計		37.8	25.5	29.7

(3) 耕起・畝立て【高畝成形機のレンタル可】

- ・圃場が乾いている時に、耕起・畝立てを一連の作業で（同日中に）行う。
- ・畝幅 150cm、畝上面 80cm以上、畝高 30cm

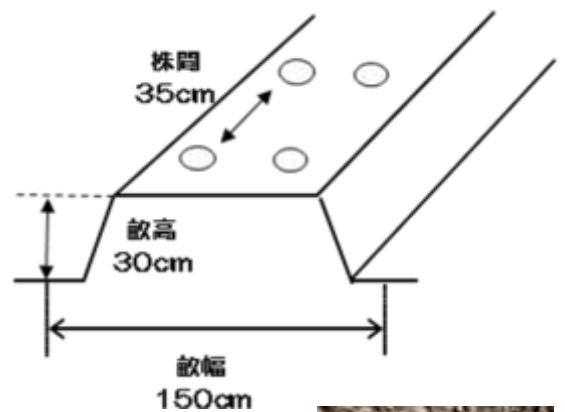
※広葉雑草（タデ科）の発生が多い圃場や、定植までに日数がある場合は、以下の除草剤を散布する。

【除草剤】ゴーゴサン乳剤（1年生広葉雑草）

10aあたり 400ml/375倍/150ℓ 散布

畝立て後、定植前、全面土壌散布（1回まで）

※注意※極端な深植えにより処理層に生長点が触れると薬害が発生する



(4) 定植前の病害虫予防

- ・定植前日に、ジョウロや動力噴霧機を使用して以下の2剤を混用散布する。
- ・薬害防止のため、高温時や極端に培土が乾いている状況での使用は避け、また散布ムラが無いよう注意する。

①害虫対策

- ・チョウ目等の害虫対策として、ジュリボフロアブルをセルトレイに灌注する。
【殺虫剤】ジュリボフロアブル 200倍液/500ml/1セルトレイ
例：5ℓのジョウロに薬剤を25ml入れ、よく攪拌した後に灌注する。
(5ℓ=セルトレイ10枚分)

②根こぶ病対策

- ・オラクル顆粒水和剤をセルトレイに灌注する。
【殺菌剤】オラクル顆粒水和剤 200倍/500ml/1セルトレイ
例：5ℓのジョウロに薬剤を25g入れ、よく攪拌した後に灌注する。
(5ℓ=セルトレイ10枚分)

<根こぶ病多発地や前作キャベツの場合>

上記薬剤に加えて、以下の薬剤を散布する。

【殺菌剤】ネビジン粉剤 30kg/10a

定植前、全面土壌混和

フロンサイド SC 200~400倍

100~200ℓ/10a

定植前、全面土壌混和



根こぶ病

4 定植・定植直後の管理

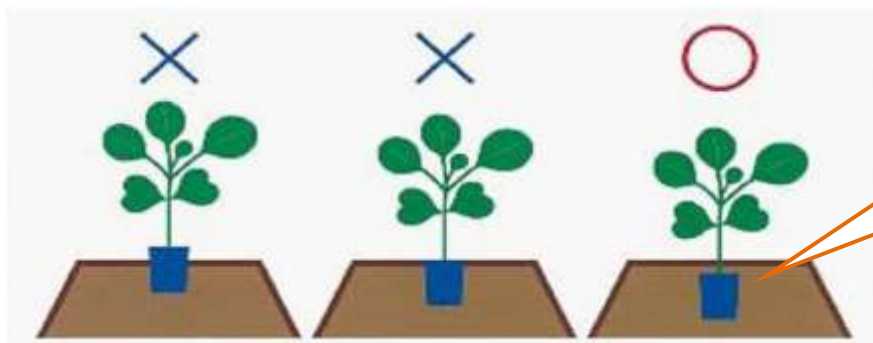
(1) 定植

【乗用全自動野菜定植機のレンタル可】

- ・株間 35cm の2条植えとする。
- ・高温時や強風日は避ける。
- ・極端な小苗や病害虫苗を除き、苗質を揃える。全自動移植機を使用する場合は、定植時に

苗の選別ができないため、定植2日前までにピンセット等で苗の入れ替えを行う。

- 鉢の上に1～2cm覆土されるよう、育苗床土が見えないようにする。
- 機械定植の場合、株間や植付深さ等が適正となっているか、作業開始時に確認・調整を行う。



極端な浅植え

浅植え

適切な植え付け

(2) 定植直後の灌水

- 定植後、圃場条件や天気に応じて畝間灌水を行う。
- 畝間灌水は、基本的に夕方^①の地温の低い時間帯に行い、畝の高さの半分程度まで水が行き渡ったら、落水する。速やかに落水できるように、必ず事前に溝の連結・手直し^②しておく。



定植直後の畝間灌水



乗用全自動野菜定植機

(3) 定植後の除草剤散布

- 定植後に（畝間灌水を行った場合は、水が引いてから）速やかに除草剤を散布する。
【除草剤】フィールドスターP 乳剤
10aあたり 50m l / 2,000 倍 / 100ℓ 散布

5 防除（別紙参照）

- 栽培管理スケジュール表に基づき、遅れないよう定期防除を行うとともに、台風等の風雨被害時には追加の殺菌剤散布を行う。
- 初期の除草剤が効かなかった場合、シアノットを散布する。

6 その他の管理

• 湿害や病害の発生を防止するため、防除後や降雨前など、随時溝の点検・手直しを行い、降雨後に畝間に停滞水がないよう、排水対策を徹底する。

• 生育盛期（結球期）頃に乾燥・少雨が続く場合は、畝間灌水やカルシウム剤（カルプラス）の葉面散布等を必ず実施する。

※乾燥が続くと、土壌中のカルシウムを根から吸収できず、内部にカルシウム欠乏症が発生し、廃棄処分となる場合がある。



カルシウム欠乏症

7 収穫【収穫用運搬台車のレンタル可】

• 事前に生産者ごとに試し切りし、しまり具合を確認してから収穫日を決定する。

• 収穫時は、出荷基準を満たしているもののみが出荷されるよう、選別を徹底して専用鉄コンテナに直接収納する。

【出荷基準（抜粋）】

● 大きさ：1玉1.25kg以上

● 調製：外葉（反り葉）を2枚つける

● 出荷できないもの

- 病虫害が見られるもの
- 裂球しているもの
- 巻きが緩いもの
- アントシアンの発生が濃く、紫色になっているもの
- 内部に腐敗、褐変、黒斑等が見られるもの
- 泥や異物（雑草の種など）が付着・混入しているもの

• 収穫作業の効率化のため、運搬台車やトラクターリアリフトを活用するとともに、切り直しや剥き直し、コンテナの詰め替え作業は行わず、組人数も必要最小限とする。→運搬台車1台に4~6名（ほ場3~5名+運搬1名）で3畝ずつ収穫



8 出荷に関する重要事項

• 出荷基準を満たさない商品混入や契約数量の未達などの契約違反が発生した場合、出荷団体並びに他の生産者に多大な不利益が発生するため、出荷契約内容の遵守をお願い致します。